資料１－４

令和６年度主要事業実施状況

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
（１）資料・情報	
（ア）長野県唯一の県立図書館の責務として、信州に関する地域資料を網羅的に「収集」し、次世代に確実に継承する「保存」と、資料を最大限活かす「利用」を戦略的にバランスよく行うため、県内外の関係機関との役割分担をし、蔵書構築をすすめる。	（ア）令和4年8月から開始した、県立長野図書館単独の電子書籍閲覧サービス「市町村と県による協働電子図書館」（デジとしょ信州）について、資料を更新し引き続きサービスを提供した。 地域資料収集の取組みとして、古書の流通情報を調査し、所蔵のない地域資料（郷土資料）や複本の確保に努めた。
（イ）利用者自身が課題を見つけ、調べ、解決する力を身に付けることを促す調査・相談（レファレンス）を実施する。国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」に事例を登録することで、調べ方を発信していく。	（イ）令和6年度の調査相談件数は以下のとおり。引き続き調べ方を伝える丁寧な調査・相談に努めたい。 【実績】 令和6年度　4,989件（R7.1月末） 令和5年度　6,696件
（ウ）情報アクセス環境の地域間格差是正のため、相互貸借送料支援および全県向けインターネット貸出を実施し、普及させる。	（ウ）令和6年度の相互貸借の状況は、以下のとおり。利用者が求める情報を得ることができるよう、相互貸借だけにこだわらず柔軟に対応できるよう努めたい。 【実績】 令和6年度　貸出冊数2,544冊　借受冊数291冊（R7.1月末） 令和5年度　貸出冊数3,619冊　借受冊数395冊
（エ）収集した資料を県民が利用し、さらなる資料を「創造」していく支援を行う。	（エ）3階の「信州・学び創造ラボ」で開催されるイベントに合わせて当館の所蔵資料を展示し、より深い学びにつなげて参加者によるアウトプットが支援できるようにしている。
（オ）読書バリアフリーに資するサービスについて、分かりやすい広報を行う。	（オ）2階一般図書室に大活字図書、LLブック、拡大読書器等を配置した「りんごの棚」を設置している。サピエ図書館、国立国会図書館「みなサーチ」などを活用したサービスについては検討段階。

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等

（２）空間の整備と、それに伴う活動の推進

（ア）「共知・共創」をコンセプトとする「信州・学び創造ラボ」において、県民の主体的活動と学びのコミュニティづくりを促し、これからの公共空間や新たな学びのモデル構築を図る。

（イ）試行錯誤ができる「学びのツール」として、「モノコトベース」をさらに活用し、コミュニティや関係機関とも協働しながら、新たな学びの仕組みを拡げていく。

（ウ）実空間と情報空間を融合させ、ICT を利活用したコミュニケーションの場を企画・提供する。

【ラボ・デザイン会議#14】

【ラボカフェ#24】

【体験発見やってみ!?】

【モノコトフェス】

（ア）（イ）（ウ）

「信州・学び創造ラボ」の活用やコミュニティ促進を目的としたワークショップとして、以下のイベントを実施した。参加しやすさに配慮し、リアル×オンラインのハイブリッド開催を標準化した。

実施したイベント（予定を含む）

《ラボ・デザイン会議》

#14 テーマ：「信州・学び創造ラボ」のエスノグラフィー

《ラボカフェ》

#23 モノコトベースの使い方を考える会

#24 旅する本箱お帰りなさいの会

#25 科学するとはどういうことか：中学生が理科の授業で考えたこと
（3月15日実施予定）

《モノコトベース》

オープンデー（9回）

オリジナルライブラリーカードワークショップ（19回）

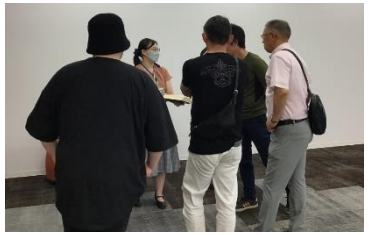
《こどものモール》(7月14日開催・3月9日開催予定)

長野市による、チケット制の子どもの体験プログラム。
3階「信州・学び創造ラボ」を会場として、多くの子ども＆保護者が来館し、
体験プログラムを楽しんだ。公共の場（図書館）での開催にあたっては、
チケットを持たない人も参加できるよう工夫した。
参加人数は約200人

※県立長野図書館として
「体験・発見やってみ!?-児童図書室『体験の貸出』出張中!-」を実施。

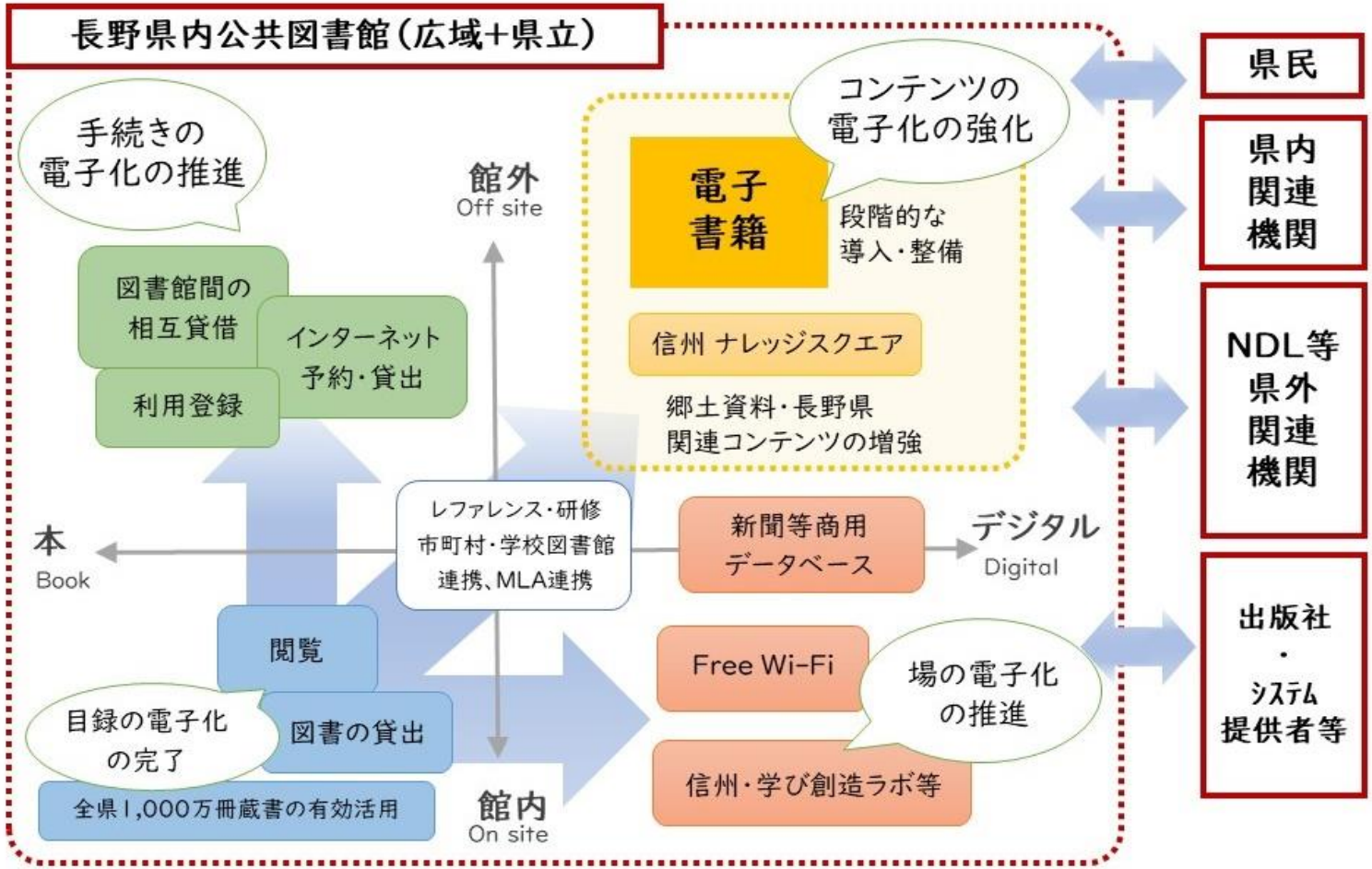
主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
（エ）図書館を、「新しい出会いと発見が促される場」と捉え、1 階児童図書室、2 階一般図書室における新しい発見・学びのプログラムを展開する。 【2 階・児童図書室展示】 【１階・児童図書室展示】	**《モノコトフェス》（12月8日開催）** モノコトベース発のコミュニティが主体となった実行委員会により開催。 ハイテクから手作り品まで、幅広いジャンルの自作品の展示・発表を実施。 参加人数は約120人。 **《信州アーツカウンシル2024パレードin長野 》**（2月5日～11日） 展示を行うとともに、「オープンカウンシル！ vol.4「文化のソーシャルワーカー」をめぐって ～越境する文化芸術の機能」（パネルディスカッション）を実施（信州アーツカウンシルとの共同企画） （エ）児童・YA世代の学びの場としての機能の充実を行った。 ・中学生の職場体験や高校の授業における「探究学習」で利用において、図書館の利用案内やレファレンス等で、探している情報を手渡すだけでなく、図書館の使い方や図書にとらわれない情報の調べ方を伝えることができた。 ・児童図書室設置のアナログゲーム（積み木・ボードゲーム・カードゲーム等）を充実することに加え、ゲームを行えるようなパレットを設置し、手に取って体験・楽しむことが出来る環境を整備した。 【信州学び・創造ラボへの出張体験会の様子】

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
   【学齢期の体験・発見のための機器・ボードゲーム】等】	・夏休みには、子どもたちが館内を巡って謎を解くスタイルの分散型プログラムを実施した。室内展示は、入口からの動線を意識しながら多様な問いかけ型の棚を構成し、利用者の探究心を引き出すための仕掛けを施している。 ・館内での利用にとどまっていたアナログゲーム等を、県内の市町村や学校図書館にも波及させるため、システム登録を行って相互貸借に対応する準備を進めている。

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
（３）各県域・分野における県民の学びを支える人材育成支援 （ア）司書としての役割を果たす人材の育成として、初任・中堅等向けの研修や、共通する課題に取組み、各館の運営に活かす「これからの公共図書館研究会」を開催する。 （イ）広域単位での公共図書館・学校図書館に対する研修会の開催支援（企画相談、講師派遣・紹介等）や、各地域の会議等への出席を通じて、各地域の活動を後押しする。 【レファレンス実習】  【林業士入門講座】	（ア）・図書館職員の中堅研修に位置づける「これからの公共図書館研究会」について、前年までの４部門を整理し、３部門を設け、県内公共図書館関係者が**計回**のオンライン研究会を開催している。 現場での課題を持ち寄り、研究・検討し、情報交換を行うフラットな場として定着している。オンライン開催方式により、フレキシブルで地域・立場を問わない積極的な参加が実現している。(実施状況は令和７年２月末時点) ・図書館の方向性検討　２回（3 月に１回開催予定） ・学びのプログラム・学校連携　４回 ・資料活用・レファレンス　３回（3 月に１回開催予定） ・初任者研修（レファレンス実習）は、会場館として初めて手をあげていただいた図書館を中心に県内４地区で開催した。（岡谷市、大桑村、小海町、県立長野） ・林業総合センターが実施する「林業士入門講座」との連携により、共知共創の場を認識し、地域の中で継続的に利活用していくためのリテラシープログラムは様々な様相を模索する中で、社会人の個別の学びに直結し、人と人とが結びつく方向性を確認した。（平成 29 年～） ・長野県図書館協会が実施するステップアップ研修「地域資料や学校資料をデジタルアーカイブ化するために」において、講師を務めた。地域資料や学校資料を参加者が持ち寄り、上向きスキャナでデジタル化し「信州デジタルコモンズ」に登録する体験をした。また、著作権処理などの悩みについて解決にむけた一歩となるよう、話し合う場を設けた。 学校 9 校を含む、20 機関から 29 名が参加。

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
 【ステップアップ研修】	（イ）「これからの公共図書館フォーラム」の新たな展開として、県内外、図書館界内外に開かれたテーマを計画、実施。会場とオンラインを組み合わせたハイブリッド方式で開催した。 **開催実績** 第１回 『Wikipedia town in 若里』 第２回 「信州・知の連携フォーラム」を兼ねて開催 （第３回目「読書の未来　信州の読書の歩みを道標として」を３月８日に実施予定） ・市町村図書館支援業務として以下の市町村を訪問 ・飯島町図書館 ・中川村図書館 ・市立岡谷図書館 ・富士見町図書館 ・栄村教育委員会（デジとしょ信州窓口開設支援） ・木島平村公民館図書室 ・飯田市立図書館
（ウ）広く社会教育に関わる分野や全国の取組を俯瞰したテーマ設定のもと、県民の学びを創発する機会として「信州発・これからの図書館フォーラム」等を開催する。	（ウ）「信州・知の連携フォーラム」第８回を実施（当番：当館） （テーマ：「楽しみ」から始めよう―「地域を知る」ってどんなこと？―）。 午前に、参加機関による次回開催予定の確認、各機関のシステム基盤についての現状と課題、意見交換等を実施。午後は先人の営みが形となった地域資源の保全・活用を、「楽しみながら」実施している事例を紹介する基調講演、事例発表を行った。

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
（エ）信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていくことを目的とした「信州 知の連携フォーラム」を一層推進する。	（エ）北信、中信、飯田下伊那、佐久市、安曇野市の公共図書館連絡会や研修会に出席し、オブザーバー、講師等を務めた。 講義内容は、学校図書館と公共図書館の取組、県立図書館職員の県立図書館の市町村への支援、著作権など。
（４）「長野県 eLibrary 計画」によるデジタル化・ネットワーク化の推進 （ア）図書館機能の高度化の方策として、県内各種機関所蔵情報のデジタル化・公開支援、手続き・サービスのデジタル化、空間や場のネットワーク化、これらを融合し使いこなす学びのネットワーク化を推進する。 （イ）自ら学び、調べるためのコンテンツとして、地域資料（郷土資料）を優先的に電子化し、「信州ナレッジスクエア」のコンテンツを拡充するとともに、長野県で生産される知的生産物を収集・保存・発信できる仕組みを提供する。	（ア）令和5年度に外部委託によりデジタル化を実施した当館資料300点について著作権調査を実施し、公開準備を進めている。令和6年度は、大正期から昭和戦前期までの郷土資料150点のデジタル化を行った。今後のデジタル化についても、優先順位をつけて取り組んでいく。 ・商用データベースの提供について、利用状況に合わせて見直しを行った。引き続き、利用促進が課題である。 （イ）新たに2機関が「信州デジタルコモンズ」の登録機関となり、新たなコンテンツの登録作業を進めている。このうち、安曇野市文書館は、清沢洌の『暗黒日記』を6月に登録した。引き続き参加団体の増加に努める。現在1機関から登録の申請を受け、業者による設定が完了した。

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
  【信州ナレッジスクエア／　eReading Books】 （ウ）市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」及び「県立長野図書館電子書籍サービス」によって、読書バリアフリー、学校と連携した活用、地域史料（郷土資料）の電子化・公開を進める。 【市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」】 【県立長野図書館電子書籍サービス】	（ウ）　市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」及び「県立長野図書館電子書籍サービス」を昨年度から継続して提供した。 ・「デジとしょ信州」運営状況（R7.1月末時点） 【利用登録者数】24,781名（全ての市町村に利用登録者がいる） 【蔵書数】計26,729冊(R7.1月末時点）うち、購入(有償）コンテンツ計15.533冊(R7.1月末時点) 【貸出数】206,819冊（一日平均約230冊の貸出がある） 最多貸出年代：10代(27%)、次いで40代(16%)、50代(16%) ・「県立長野図書館電子書籍サービス」運営状況 （令和６年度１月末時点実績） ・R6年度 【蔵書数】1,791冊 【閲覧数】2,878回　（1冊あたり閲覧平均　1.6回）

「長野県 eLibrary 計画」概念図